

哺乳豚における豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）発生事例とPRRSウイルス浸潤調査

茨城県県北家畜保健衛生所

○石田祐貴 川西菜穂子

豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）は母豚の繁殖障害、子豚の呼吸器症状を主徴とし、被害の大きな疾病の一つ。令和 6 年 9 月に母豚約 200 頭規模の一貫経営農場で母豚の早産、哺乳豚の下痢・呼吸器症状が確認され、病性鑑定を実施。哺乳豚から PRRS 遺伝子が検出され、系統解析によりクラスターⅣに分類。本農場は過去の流産胎子や保存血清からも PRRS 遺伝子を検出したが、クラスターⅢに分類され、令和 6 年 6 月以降の 3 ヶ月間に新たな株が侵入したと推測。約 10km 圏内の周辺農場の浸潤調査では 11 農場すべてが抗体陽性で、10 農場で PRRS 遺伝子を検出。系統解析によりクラスターⅠ～Ⅳに分類され、クラスターⅣが 6 農場と最多。周辺の他地域の調査を併せてもクラスターⅣが最も多く、クラスターⅢが優勢であった平成 28 年度の県内の報告とは変化。令和 6 年に発生農場周辺の市で捕獲されたイノシシの浸潤調査では PRRS-ELISA 抗体は一部地域で陽性であったが、遺伝子検査は陰性。リアルタイム PCR の導入で多検体の検査が可能となり、遺伝子解析用プライマーを追加することで検出数も増加し、より簡便に浸潤調査が可能。令和 5 年度の県内 PRRS 抗体調査では 93% の農場が陽性と高値。県内で広く浸潤している PRRS ウイルスを適切なステージで継続的に調査し情報共有することは、PRRS 対策だけではなく、豚熱等のより重大な疾病に対して農場防疫の問題点を見直すためにも重要。